

もいの伝書鳩

発行：石狩振興局森林室普及課

住所：〒061-0216
石狩郡当別町栄町 192-7

電話：0133-22-2161

FAX：0133-22-0551

ホームページ：<https://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/index.html>



↑過去の情報誌はこちら



ドングリの豊凶について

『今年は10年ぶりに山の「木の実」の生育が良好で、クマの出没件数が減少した』との報道を目にした人も多いのではないのでしょうか。山や市街地の公園など、あちこちでドングリがたわわに実る光景が見られ、今年はまれにみる豊作となりました。

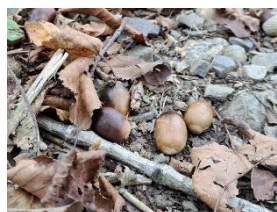
ドングリは、ヒグマにとって、冬眠を前に栄養価の高い貴重な食糧です。道では、ヒグマによる人身被害防止に向けた注意喚起に活用するため、毎年秋に山の実なり調査を実施しています。今年、ヒグマの秋の主要食物4種の豊凶状況を調査した結果、ドングリ（ミズナラ・ブナ）、ヤマブドウ、コクワの実なりは、いずれも全道で良好でした。

ドングリは、数年周期で豊作や凶作を繰り返しています。その理由は様々ですが、種子の生産のために消費する樹体内の養分を回復させることと、結実に影響を及ぼす気象条件が年によって異なるためだといわれています。一般的に、樹木は高温で乾燥した夏の翌年に、開花・結実が多くなりますが、近年では、気温の上昇により、その周期が短くなっていることが明らかになっています。今後、豊凶の周期の変化がクマの出没頻度にどう影響するのか、気になるところです。

～ちょっと小話～

豊凶の周期は、ミズナラが3～4年に対しブナは5～7年と長くなっています。ミズナラのドングリには渋み成分であるタンニンが含まれていますが、ブナには渋みや苦みがありません。ナッツのような食味で非常に美味しく、動物たちの大好物です。豊作が頻繁に続くと、食べ尽くされ、動物の個体数の増加につながるため生き残りの戦略として、周期を長くしているといわれています。

ドングリは冬のご馳走！
あちこち穴を掘って埋めておくよ。掘り忘れたドングリが芽を出して育つんだ♪



ミズナラ



ブナ

木が1年で最も成長するのはいつ？

日本のように四季がはっきりしている地域の木には、年輪ができます。では、年輪はどのように形成されるのでしょうか。

木は1年を通して成長しますが、季節によって成長のスピードが異なります。春から夏にかけて作られる材（早材）は、細胞の形が大きく細胞壁が薄いので、柔らかく色も薄くなります。一方、夏から秋に作られる材（晩材）は、細胞の形は小さく細胞壁が厚いので、堅く色も濃くなります。早材と晩材が交互にできることで、年輪が形成されるわけです。



年輪を数えるとき、大抵の人はくっきり見える色の濃い部分（晩材）を数えます。晩材は、比較的幅が一定で黒い線のように見えますが、早材は、その年の気候や樹種ごとの成長特性、間伐などの施業の影響により、太くなったり細くなったりします。

気候や樹種特性を変えることはできませんが、施業をやるかどうかは所有者の考え次第です。太い木をつくりたいのであれば、間伐による密度調整を行い、成長促進を図る必要があります。成長旺盛な若い時期から、繰り返し間伐を行うことで、年輪幅の一定な良質な木が育成されます。

さて、タイトルの答えですが、皆さんはいつだと思いませんか？ 所有する人工林の太さを毎日計測した指導林家によると、1年で最も成長するのは「5月」とのことでした！

木は、雪が残る3月頃から徐々に水を吸い上げ、芽吹き準備を始めます。葉が青々と生い茂る夏に成長するイメージがありますが、実は、芽を出し葉が一斉に開く春先に最も成長するようです。



カラマツ断面

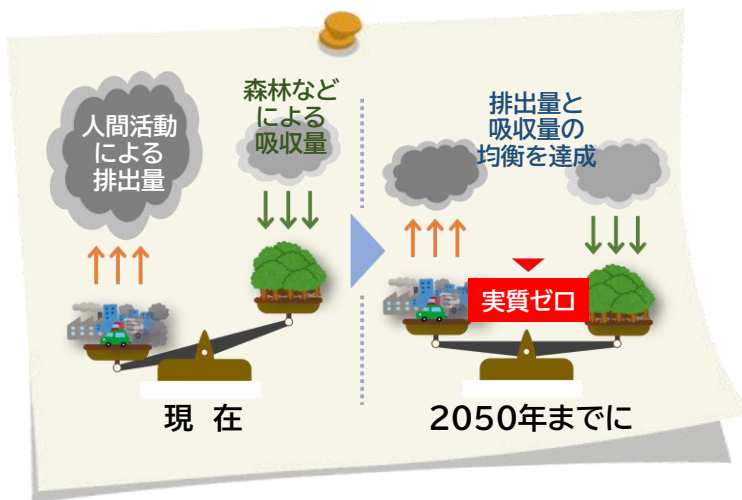
造林木同士の競合が始まる15年生頃まで成長旺盛だったが、間伐していないためその後の成長は低下し、年輪幅が狭くなっている



森林は大きな炭素貯蔵庫

今夏、全国では連日猛暑日が続き記録的な高温となり、10月になっても各地で真夏日を記録するなど、異例の残暑となりました。道内は、昨年ほどではありませんでしたが、エアコンの設置が当たり前の時代になりつつあります。暑さをもたらす原因は様々あるにしろ、長期的な地球温暖化が気温を底上げしていることは否定できない状況です。

温暖化への対応として、カーボンニュートラルの実現に向けた動きが世界的に加速しています。道は、全国に先駆け2020年3月に「ゼロカーボン北海道」を宣言し、2050年までに道内の温室効果ガスを実質ゼロとする目標の実現に向け、取組を進めています。



北海道における森林吸収源対策

1 活力ある森林づくり

- 吸収能力の高い森林を整備

2 道産木材の利用拡大

- 「HOKKAIDO WOOD」のブランド力の強化
- 建築材等の安定供給対策の強化

3 企業等の協力による森林づくり

- 企業等のCSR活動による森林整備の推進（企業等と森林所有者のマッチング）

木の質は、



国土の7割近くを森林が占める日本において、森林は最大の二酸化炭素吸収源です。木は、光合成により大気中の二酸化炭素を吸収します。吸収した二酸化炭素から、幹や根、枝葉を形成するためにブドウ糖などの有機物をつくり、炭素として樹体内に貯蔵して成長します。木の重さの約半分は炭素からできており、実は、木は炭素のかたまりです。

また、伐採された木材は、住宅や家具など製品として利用されている間は、炭素を固定しています。燃やさない限り、木材から大気中に二酸化炭素が放出されることはありません。木を木材として長く使用することでまちが第二の森林としての機能を果たしています。

